

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
MAY

No. 141

Sun. 18th May
Niigata Subscription Concert

No. 730

Sat. 24th May
Subscription Concert

5



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ◆
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太樓
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター	大谷康子
第1コンサートマスター	小林啓成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会 長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 異
専務理事	廣岡克隆
理 事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コシジュンコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子
監 事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	
最高顧問	金山茂人
評議員	梅沢一彦 星 久人
	鷲海量明 山添 茂
	片山泰輔 芳野まい
	加藤英輔
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins
○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
小山あずさ
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有望
吉川万理

2nd Violins
○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河堀あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部真弓
坂井みどり

Violas
○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos
☆伊藤文嗣
■笹沼 樹
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり *

Double Basses
■助川 龍
○コーディ・ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邊淳子

Flutes
■相澤政宏
○竹山 愛
Flute & Piccolo
濱崎麻里子

Oboes
○荒 絵理子
○荒島良太
浦脇健太

Oboe & English horn
最上峰行

Clarinets
○エマニュエル・ヌヴー
○吉野亜希菜
近藤千花子

Bassoons
○富士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns
○上間善之
加藤智浩
白井有琳
藤田麻理絵 *

Trumpets
○澤田真人
○ローリーディラン
野沢岳史 ●
松山 萌

Trombones
○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone
藤井良太

Tuba
近藤陽一

Timpani & Percussions
○清水 太
○山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp
渡辺沙羅 *

Librarians
林 知也
加藤幸子

Stage Managers
西岡理佐
山本 聡

楽団員
井伊 準 ◆

楽団長
廣岡克隆

編成局シニアディレクター
藤原 真

編成局パーソネルマネージャー
謝名元 民

楽団委員
北村一平 (議長)
多井千洋 (書記)
浦脇健太
鈴木浩司
福留史紘
最上峰行

事務局長
辻 敏

事務局
■尾木貴雄
□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
相原美砂
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
■梶川純子
山本未央子 *

名誉団友
深江泰輔 ◆
三木晴雄 ◆

団 友
天野佳和
新井 汎
安藤史子
池田 肇
石川晴依世
今村和弘
岩澤淳子
上原正二
上原規照
上原茉莉
内田彬雄
内田乃利子
宇都 実
梅田 学
大隈雅人
大塚正昭
大楚展男
大和田浩明
大和田ルース
小川さえ子
荻野 昇
奥田昌史
吉川健二
加護直美
笠原勝二
甲藤さち
加藤信吾
金澤 茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎 隆
曾野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成之
武田英昭
田中英樹
千村雅信
十亀正司
豊山 悟
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依智子
西脇秀治
野村美濃
馬場隆弘
原田美保子
日野 奏
ペアン・
ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺 功
渡辺哲郎
渡辺裕子

☆ソロ首席奏者 ■客演首席奏者 ○首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター
■本部長 □部長 ■シニアディレクター *研究員・準事務局長 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン・携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

5/18 SUN.

新潟定期演奏会 第141回

2025年5月18日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.141

Sun. 18th. May 2025, 17:00 Ryutopia Concert Hall

下野竜也 [指揮]

小林 亨成 [コンサートマスター]

SHIMONO Tatsuya, Conductor

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

スメタナ:連作交響詩「我が祖国」(80')

I. ヴィシェフラト

II. ヴルタヴァ

III. シャールカ

IV. ボヘミアの森と草原から

V. ターボル

VI. プラニーフ

SMETANA: Má Vlast (80')

I. Vyšehrad

II. Vltava

III. Šárka

IV. Z českých luhů a hájů

V. Tábůr

VI. Blaník

●主催 / 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、BSN新潟放送

●助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

本公演には休憩がありません。

楽曲解説はP.5をご覧ください



5/18 SUN.



©Shin Yamagishi

SHIMONO Tatsuya

Conductor

下野竜也

[指揮]

NHK交響楽団正指揮者、札幌交響楽団首席客演指揮者、広島ウインドオーケストラ音楽監督、広島交響楽団桂冠指揮者。

鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール、2001年プザンソン国際指揮者コンクール優勝。NHK交響楽団をはじめ国内の主要オーケストラの定期演奏会に招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコ・フィル、バルセロナ響をはじめとした国際舞台でも活躍。オペラにおいても新国立劇場、二期会、日生劇場をはじめ注目の公演に招かれている。

これまでに読売日本交響楽団正指揮者、同首席客演指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者、広島交響楽団音楽総監督を歴任。東京藝術大学、東京音楽大学にて後進の指導にもあたる。

齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞、東燃ゼネラル音楽奨励賞、有馬賞、広島市民賞、中国文化賞など受賞多数。

NHK大河ドラマテーマ曲収録（これまでに7作品）、NHKFM「吹奏楽のひびき」パーソナリティを務めるなど、放送においても活躍している。

Permanent Conductor of NHK Symphony Orchestra since October 2023, Principal Guest Conductor of Sapporo Symphony Orchestra and Conductor Laureate of Hiroshima Symphony Orchestra since April 2024.

Born in Kagoshima in 1969, Tatsuya Shimono cemented his international reputation as a conductor by winning the First Prize and the Hideo Saito Award at Tokyo International Music Competition for conducting in 2000 and the First Prize at the 47th Besançon International Competition in 2001. Since then he has guest conducted major orchestras such as Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Czech Philharmonic, Barcelona Symphony (OBC), Sinfonia Varsovia, Tokyo Symphony Orchestra and NHK Symphony Orchestra among others.

Shimono served as Resident Conductor and then Principal Guest Conductor of Yomiuri Nippon Symphony Orchestra (2006-2017), guest conductor and then Principal Guest Conductor of Kyoto Symphony Orchestra (2014-2020) and general music director of Hiroshima Symphony Orchestra (2017-2024).

He is also holding the title of Music Director of Hiroshima Wind Orchestra since 2011.

In addition to his activity with orchestra he also regularly conducts Opera at New National Theatre Tokyo, Nissay Theatre and Nikikai Opera among others.

ベドジフ・スメタナ(1824～1884)

連作交響詩「我が祖国」

ベドジフ・スメタナ(1824～1884)が連作交響詩『我が祖国』を作曲していた社会的な脈絡と音楽史的な脈絡は、いかなるものなのか。以下ではこの問題について素描しよう。

初期のチェコ人の民族運動の目的は、チェコ語を文語として復興させることであり、主な担い手は学者や文人だった。17世紀にハプスブルク家に支配されてからチェコ語はボヘミアとモラヴィア(順に、現在のチェコ共和国の西半分と東半分に相当)において公的な地位と文語としての権威を失った(誤解されがちだが、ハプスブルク家の支配下にあってもチェコ語の使用が禁止されていた訳ではない)。チェコ語に関する研究や、古典文学や同時代のヨーロッパの文学作品のチェコ語への翻訳とチェコ語での文芸作品の実作が盛んに行われた。初期の民族運動は、言語と文化に関する側面に重点を置いていた。

だが、イギリスからヨーロッパの大陸に波及した産業革命と1848年にウィーンで起きた「三月革命」とによって、チェコ人の民族運動は変化する。前者によって産業化が進行して、チェコ人の経済力が高まった。後者をきっかけに、チェコ語を第一言語とするチェコ人としての民族意識を涵養したり、チェコ語にドイツ語と同等の公的地位を求めたりする運動も盛んになった。1867年にオーストリア＝ハンガリー二重帝国が成立すると、この動きはさらに強まり、ドイツ語を第一言語とする「ドイツ人」との民族対立が起き始めた。

チェコ人の民族運動が政治的な性格を帯びるとともに、文化の領域でもチェコ人の民族意識を涵養する動きが盛んになる。中でも、宗教改革にも影響を与えたヤン・フス(1370頃～1415)と彼の理念を支持したフス派の活動を民族の苦難と栄光を体現するものとして描いた著作や芸術作品が相次いで発表された。19世紀後半以降のチェコ人の民族運動は、言語と文化に軸を置きつつも、政治的な性格も帯びていった。スメタナが連作交響詩『我が祖国』を作曲していた社会的な脈絡とは、こうしたものだった。

スメタナは、「連作交響詩」という構想を作曲の当初から固めていたわけではない。むしろ、作曲を進めつつ具体化させていったと言える。オペラ『リブシェ』を脱稿した1872年にチェコ人の民族精神を称揚する管弦楽曲の構想を抱き始めたが、その構想はまだ漠然としていた。翌1873年に連作交響詩として構想し始め、「ヴィシェフラト」と「ヴルタヴァ」を1874年に完成させたのちに、1875年に「シャルカ」と「ボヘミアの森と草原から」を作曲した。この頃の構想では、この4曲で連作を完結させる予定だった。だが、1878年の11月から12月にかけて「ターボル」を、1879年の3月に「ブラニーク」を連作の掉尾を飾る曲として完成させた。これによって、今日知られている全6曲の連作交響詩が完結した。

5/18 SUN.

『我が祖国』で扱われている標題的内容は、スメタナ自身による楽曲解説と楽曲で主題として用いられている楽句の扱われ方から、(1) 太古のチェコ人の栄光に満ちた伝説を描いた曲、(2) ボヘミアの自然美とそこに暮らすチェコ人の生活を描いた曲、(3) フス派戦争に関する史実とそこから生じた救国伝説を描いた曲の3つに大別できる。

(1) 第1曲「ヴィシェフラト」では、プラハ市内のヴルタヴァ川沿いにあるヴィシェフラトの城跡を詩人が眺めているうちに、かつての城塞に竖琴の音が鳴り響き、騎士たちがそこで戦った様子へ思いを馳せる様子が描かれる。第3曲「シャルカ」では、男たちに虐げられた末に城を構え、軍備を整えた女たちが逆襲する様子が描かれる。

(2) 第2曲「ヴルタヴァ」では、ヴルタヴァ川が水源からボヘミア各地を経てヴィシェフラトの横を流れた末にエルベ川に向けて去り行くさまを描くために、第1曲での主題を末尾で回帰させる。第4曲「ボヘミアの森と草原から」でも、水の動きを思わせる音型やポルカのリズム音型や民謡を想起させる旋律が、主題として活用される。

(3) 第5曲「ターボル」は、フス派の重要な拠点だった南ボヘミアの町ターボルでの戦いを描く。第6曲「ブラニーク」は、戦いに敗れたフス派の英雄たちが鎮圧された後に身を隠して眠っているブラニークの伝説を描いたのちに、彼らの精神に導かれてチェコ人が将来再生するさまを謳い上げる。いずれの曲でも、フス派のコラール「汝ら神の戦士」の旋律を分割したものが主題として用いられる。さらに「ブラニーク」では、第1曲「ヴィシェフラト」の主題が末尾で高らかに鳴り響き、連作交響詩の全体を締めくくる。

『我が祖国』では、ある交響詩の主題を別の交響詩でも活用することで、題材のみならず音楽的側面からもそれぞれの交響詩が関連付けられている。リストが案出した交響詩の理念を有機的な統一性を持った連作として発展させたという点において、スメタナの『我が祖国』は交響詩、ひいては標題音楽の歴史においても重要な位置を占めるものである。

中村真 Text by NAKAMURA Makoto

作曲：1874～1879年

初演：第1曲「ヴィシェフラト」：1875年3月14日

第2曲「ヴルタヴァ」：1875年4月4日

第3曲「シャルカ」：1877年3月17日、第4曲「ボヘミアの森と草原から」：1876年12月10日

第5曲「ターボル」、第6曲「ブラニーク」：1880年1月4日

全曲初演：1882年11月5日

編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、トライアングル、バスドラム、シンバル、ハープ2、弦5部

5/24 SAT.

第730回 定期演奏会

2025年5月24日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.730

Sat. 24th May 2025, 18:00 Suntory Hall

沼尻竜典 [指揮]

マルティン・ガルシア・ガルシア [ピアノ]

小林 啓成 [コンサートマスター]

NUMAJIRI Ryusuke, Conductor

Martín GARCÍA GARCÍA, Piano

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

バルトーク:

組曲「中国の不思議な役人」(20')

BARTÓK:

The Miraculous Mandarin Suite (20')

リスト: ピアノ協奏曲 第1番

変ホ長調 S.124 (19')

LISZT: Piano Concerto No.1

in E-flat major S.124 (19')

I. アレグロ・マエストロソ

II. クワジ・アダージョ

III. アレグレット・ヴィヴァーチェ - アレグロ・アニマート

IV. アレグロ・マルツィアーレ・アニマート

I. Allegro maestoso

II. Quasi adagio

III. Allegretto vivace - Allegro animato

IV. Allegro marziale animato

休憩 (20')

Intermission (20')

チャイコフスキー: 交響曲 第4番

へ短調 op.36 (44')

TCHAIKOVSKY: Symphony No.4

in F minor op.36 (44')

I. アンダンテ・ソステヌート - モデラート・コン・アニマ

II. アンダンティーノ・イン・モード・ディ・カンツォーナ

III. スケルツォ・ピッチカート・オスティナート・アレグロ

IV. フィナーレ: アレグロ・コン・フォーコ

I. Andante sostenuto - Moderato con anima

II. Andantino in modo di canzona

III. Scherzo: pizzicato ostinato. Allegro

IV. Finale: Allegro con fuoco

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.10をご覧ください



5/24 SAT.



NUMAJIRI Ryusuke

Conductor

沼尻竜典

[指揮]

神奈川フィル音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィル音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。ベルリン留学中の1990年、プザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以後、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等、世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内外で数々のポストを歴任。ドイツではリューベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、劇場専属のリューベック・フィルとのコンサートの双方において多くの名演を残した。ケルン、ミュンヘン、ベルリン、バーゼル、シドニー等の歌劇場へも客演。16年間にわたって芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、ミヒャエル・ハンペの新演出による《ニーベルングの指環》を含め、ワーグナー作曲の主要10作品をすべて指揮。14年には横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ《竹取物語》を作曲・初演、国内外で再演されている。17年紫綬褒章受章。

Music Director of Kanagawa Philharmonic Orchestra. Music Director of Tokyo Mitaka Philharmonia. After winning at Besançon Competition he has been invited by international orchestras such as London Symphony Orchestra, Montreal Symphony Orchestra, Orchestre du Capitole de Toulouse, DSO Berlin, La Verdi Milano, Slovak Philharmonic Orchestra, Sydney Symphony Orchestra, Saito Kinen Orchestra and also by the major opera theaters in Cologne, Berlin, Munich, Sydney and Tokyo. He had led successful productions at Theater Lübeck as General Music Director. At Biwako Hall, during 16 years as Artistic Director he has been achieving tremendous success on Wagner's 10 productions including "Der Ring des Nibelungen". In 2014 Numajiri composed and made world premiere a beautiful opera by Japanese famous folktale "Bamboo Princess", known as story of Princess Kaguya, which has been repeated and highly acclaimed. He was awarded Medal of Honor with the Purple Ribbon by Emperor of Japan in 2017.



©Fadi Berisha

Martín GARCÍA GARCÍA

Piano

マルティン・
ガルシア・
ガルシア
[ピアノ]

マルティン・ガルシア・ガルシア(1996年スペイン生まれ)は、国際的に最も優れたピアニストの一人として、欧米はじめアジアの主要会場で演奏、世界中で称賛されている。

彼はレイナ・ソフィア音楽学校で学び、その後ニューヨークのマネス音楽院でジェローム・ローズの指導の下、修士号を取得。

2021年クリーブランド・ピアノ・コンクールで優勝、同年ショパン・コンクールで第3位と最優秀協奏曲特別賞を受賞、世界的に高い評価を獲得。最近では、M.プレトニョフ、V.ペトレンコ、A.ボレイコ、S.カンブルランなどの著名な指揮者、ハンブルク響、ワルシャワ・フィル、スペイン国立管、ソウル・フィルなどと共演、日本ではこれまでN響、読響、東フィル、神奈川フィルと共演、NHK-BS「街角ピアノスペシャル」に出演するなど、ますます人気が高まっている。

<https://martingarciagarcia.com>

Martín García García (b. 1996, Spain) considered as one of the pianists with the greatest international projection. He is performing at major venues in Europe, America, Asia, and is acclaimed around the world.

He studied at the Reina Sofia School of Music and he later completed a Master's in Piano at the Mannes School of Music in New York under the tutelage of Jerome Rose.

In 2021, he won first prize at the Cleveland International Piano Competition and third place at the Chopin Piano Competition, where he also received the Warsaw Philharmonic's special award for the best

His recent collaborations have seen him perform with top orchestras, including Hamburg Sym., Warsaw Phil., Orquesta Nacional de España, Seoul Phil, under the batons of esteemed conductors such as M. Pletnev, V. Petrenko, A. Boreyko, S. Cambreling and etc.

5/24 SAT.

ベーラ・バルトーク (1881 ~ 1945)

組曲「中国の不思議な役人」

ハンガリー生まれのベーラ・バルトーク (1881~1945) は、東欧のフォークフロアに寄り添い、民俗的で個性的な音楽を書いたことで知られる。

本組曲は、同名のパントマイムのための音楽の最初から三分の二までの部分を、多少削減しつつそのまま使ったものだ。メニューヘルト・レンジェルが1917年にハンガリー語で発表した脚本には、アジア人を脅威と見る黄禍論やディアギレフのバレエ団との関連も指摘される。パントマイムの音楽の作曲は国の政治的混乱期に行われ、1919年にスケッチが完成し、オーケストレーションへの着手と完成は1924年。政治状況とおどろおどろしい脚本の内容から、ブタペスト歌劇場での初演は何度も阻まれ、ドイツのケルンで1926年に初演された。初演への拒否反応も非常に強く、こうしたなかバルトークは音楽を救出するべく組曲版の作曲を構想する。それは1927年に完成し、翌年10月、ブタペストでエルネー・ドホナーニ指揮で初演された。

音楽は劇の内容と密着している。導入部は街の喧騒と、隠れ家に集まる3人の悪党。彼らは金を欲し、少女ミミに窓辺に立つように命じる。誘惑のゲームは3回行われる。開始を告げるのは毎回、2本のクラリネットによる旋律だ。

最初に階段をのぼってきて求愛のジェスチャー(トロンボーン)をするのは老紳士だ。彼は呑気に、大事なのは愛でお金ではないと言う(コーラングレとオーボエ)。だが警告的な音楽で悪党が姿をあらわし、彼を部屋から放り出す。

二番目は純朴な若い学生(オーボエ)。彼はミミに気に入られ、一緒にぎこちなく踊るが(ハープや木管)、結局悪党たちにつまみ出される。

三番目は辮髪の子中国の高級官吏だ(五音音階風の動機やトロンボーン)。ミミは怯えるが、彼のために情感的な踊りをはじめ。ミミが膝にもたれかかると彼は興奮し、アラブ風とも言われる音楽(低音弦やテナー・ドラム)に乗ってミミを追い回す。ミミを捕まえたところで組曲は終わる。パントマイムの音楽ではこの後、中国人が悪党に何をされても死なず、ミミに抱擁されてついに死にいたるという過程がある。

菊間史織 Text by KIKUMA Shiori

作曲: 1927年

初演: 1928年10月 ブタペスト

編成: フルート3 (ピッコロ持替2)、オーボエ3 (イングリッシュホルン持替1)、クラリネット3 (小クラリネット、バスクラリネット持替1)、ファゴット3 (コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、テナードラム、シンバル、トライアングル、タムタム、シロフォン、ハープ、ピアノ、チェレスタ、オルガン、弦5部

フランツ・リスト(1811～1886)

ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124

ロマン派の作曲家フランツ・リスト(1811～1886)は、ハンガリー語を話せずとも生涯ハンガリー人という自覚をもっていた。ピアノのヴィルトゥオーゾとして知られるが、1847年を境にカリスマ的な演奏生活から退いた。

彼のピアノ協奏曲には第1番、第2番と、1988年に発見された曲が存在し、そのほか1820年代に書かれたピアノ協奏曲の楽譜は紛失した。第1番は当時としては斬新な協奏曲だったが、じっくりと時間をかけて練られた。1830年頃から構想され、1835年から1856年にいたるまで何度も完成しては改稿が行われた。なにが斬新かというと、まず楽章区分はありながら、実質的に単一楽章として、楽章間を主題が循環する形式がとられたこと。また通常は3楽章構成のこのジャンルにおいて、スケルツォ楽章を入れた4部構成としたこと、トライアングルを異例に重用したことが挙げられる。

ピアニスト・作曲家のアンリ・リトルフに献呈された本作の初演は、1855年2月17日。当時のリストの拠点、ドイツのヴァイマルにて、友人の作曲家ベルリオーズの指揮とリスト自身の独奏で行われた。

第1楽章の冒頭主題は作品全体を貫く(鋭い弦楽器と管楽器の呼応にピアノが重々しく続く)。ピアノはすぐにカデンツァへ。甘美な主題や憂いを含む主題もピアノやクラリネットから姿をあらわす。自由なソナタ形式。

第2楽章では弦楽器を追って、ピアノが、付点リズムではじまる緩やかな旋律を奏で、チェロに应えて激しいレチタティーヴォを歌う。後半でフルートが清らかな副主題を導く。つなげて奏される第3楽章は、おどけた主題をもち、トライアングルに彩られてピアノが小人の踊りのように駆け回る。途中で冒頭主題が再来し、オーボエから第2楽章の副主題も入ってくる。すぐに続く第4楽章では、第2楽章の主題が行進曲風に変奏され、同楽章のレチタティーヴォ、副主題のきらびやかな変奏、そして第3楽章の主題の変奏が次々とあらわれ、圧倒的な冒頭主題で締めくくられる。

菊間史織 Text by KIKUMA Shiori

作曲: 1835～1856年

初演: 1855年2月17日 ヴァイマル

編成: 独奏ピアノ、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、シンバル、弦5部

5/24 SAT.

ピョートル・チャイコフスキー (1840 ~ 1893)

交響曲 第4番 へ短調 op.36

ロシアの地方の名家出身のピョートル・チャイコフスキー (1840~1893) は、土臭い管弦楽曲から優雅なバレエ音楽まで、さまざまなタイプの情感豊かな音楽を残した。

本作は1876年末から彼の文通相手・パトロンとなったナデージダ・フォン・メック夫人に捧げられ、彼女に各楽章の標題を説明した手紙がよく知られる。冒頭のファンファーレは幸福の追求を妨げる運命、第1楽章第一主題は絶望、第二主題は夢、第2楽章は疲れた者の憂鬱、第3楽章は酒に酔ったときに浮かぶイメージ、第4楽章は民衆の喜びに見出す救い、といったものだ。だが彼自身、この標題はいい加減だとしており、むしろこれは作曲を支えたメックに誠意やこの交響曲の重みを伝える言葉であっただろう。

メックへの1877年5月1日 (旧暦。以下の月も同様) の手紙によれば、本作はその年の冬から書きはじめられた。ということはメック夫人と文通を開始した頃だ。5月末に全体のアウトラインが完成。この春彼の人生は大きく揺さぶられており、その精神的な動揺も作品に反映したのだろうか。彼は4月初旬にアントニーナという女性からの恋文を読み、自身の同性愛という性的指向にもかかわらず5月に結婚を考え、7月に結婚式を挙げたがすぐに逃げ出したのである。

《エフゲニー・オネーギン》の作曲を挟んでオーケストレーションは8月半ばに開始され、12月に旅先のイタリアで集中的に取り組み完成された。初演は1878年2月10日、モスクワでニコライ・ルビンシテイン指揮により行われ、大きな成功を収めた。

苦勞して書かれた第1楽章は、おおまかにソナタ形式に準じつつ自由な構成で、各主題間のリズムが対比されている。冒頭のファンファーレ (作曲家本人によればベートーヴェンの交響曲第5番の模倣) は展開部や再現部、コーダの前にも繰り返される。チャイコフスキーの旋律美が発揮された第2楽章は、心あたたまる中間部をもつ。第3楽章はスケルツォ楽章で、ピツィカート of 弦楽と民俗舞踊風の管楽からなる。第4楽章はロンド形式に近く、祝祭的な主題と並んでロシア民謡「野に立つ樺の木」が奏される。

菊間史織 Text by KIKUMA Shiori

作曲: 1877 ~ 1878年

初演: 1878年2月10日 モスクワ

編成: ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、トライアングル、シンバル、バスドラム、弦5部

マリオッティ指揮 《スターバト・マーテル》が 期待される理由

文 香原斗志(音楽評論家)



Michele Mariotti

作曲家の息遣いや 鼓動まで再現できる指揮者

ミケーレ・マリオッティが東京交響楽団を指揮して、ロッシーニ《スターバト・マーテル》を演奏する。本人から聞いてはいたが、これほどの歌手がそろうとは予想しなかった。伊ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル(ROF)でも、ここまで理想的なキャストはなかなかそろわないが、それは後述する。

ここ15年ほど、マリオッティが指揮するロッシーニを繰り返し聴いてきたが、常に特別であった。テンポは変化を繰り返し、ディナーミクは自然な呼吸のようで、作曲家の息遣いや鼓動のようだと思うせながら、抜群の様式感を誇る。200年前に失神する人が続くほど熱狂を呼び起こしたロッシーニの力を、目の当たりにさせられる。

むろんロッシーニだけではない。2023年6月、東京交響楽団を指揮して演奏したシューベルトの交響曲第8番「グレート」。大きく抑揚がつけられ、人間の息や鼓動のように自然に脈打ち、無限に変化しながら均衡がとれて

いた。第3楽章の舞曲の主題や第4楽章の「歓喜の歌」は歌い、さらには踊ったが、足どり軽やかなのにしっかり地を踏みしめていた。結果は、楽員がみな引き上げても拍手は止まなかった。

指揮する際になにを大事にしているか、とマリオッティに尋ねると、「響きを創造すること」「ドラマを創造すること」で、そのために「楽譜を読み込む」という返答だった。では、どうやって創造するのか。「グレート」では「第2楽章にマーラーが書いたかのような箇所がある」と伝え、「響きにいっそうの苦しみや甘酸っぱさ、退廃的な雰囲気加わった」と話す。

ローマ歌劇場音楽監督として 深化を続ける

マリオッティがシューベルトを指揮すると、ロッシーニと同時代の音楽だと納得させられる。時代の背景から空気までつかみながら、作曲家の精神を掌中にできているからだと思う。2023年4月には、2022/23シーズンから音楽

マリ奥特ティ指揮《スターバト・マーテル》が期待される理由

監督を務めるローマ歌劇場で同様の体験をした。プッチーニ《外套》とバルトーク《青ひげ公の城》のダブルビルで、両者が同じ1918年に初演されたことを強く意識させられた。

ヴェリズモのように思われている《外套》は、むしろ抽象的で、内面が重視されて表現主義的でさえあった。登場人物の心に耳を傾けるオペラだと知らされた。一方、《青ひげ公の城》は相互理解の難しさを表現主義的に強調していると認識していたが、思いのほか劇的だと知らされた。縁が遠そうな作品がじつは双子のようであると、見事に伝えてくれた。

首都の歌劇場ゆえに国際的なレパートリーをこなす必要があり、「大きく前進できる」と抱負を語っていたマリ奥特ティ。その経験が演奏のさらなる深化につながっていることは疑いない。

2024/25シーズン開幕のヴェルディ《シモン・ボッカネグラ》も異次元だった。導入曲から自在なディナーミクで風や波音が表され、潮の香さえ漂ってきそうで、同時に微妙な心理の反映のようにも聴こえる。終始、あらゆる感情が想像を超えた深みと凄味とともに表され、歌手にも徹底して微妙な表現が求められた。結果、奥行きのある内面のドラマが伽藍のように構築された。

世界最高峰のロッシーニ歌手が集結

こうした経験を重ねて、十八番のロッシーニは相対化され、それゆえになおさらロッシーニらしさが際立ち、生命力を増していると感じる。

「ロッシーニは解釈を加えなければ平凡になるもが、きちんと解釈を加えれば天才の作品になる」とマリ奥特ティは語る。事実、ロッ

シーニは演奏家が肉づけするのを前提に音楽を書いた。そして最近、マリ奥特ティの「解釈」は冴えまくる。

2023年のROFで演奏された《小莊厳ミサ曲》は、管弦楽版だったが室内乐的な親密さが大切にされ、歌手たちからは徹頭徹尾、微妙なニュアンスが引き出された。

2024年3月にミラノ・スカラ座で上演された《ギヨーム（ウィリアム）・テル》では、旋律美が存分に表現され、強弱が適切につけられながら細部まで緻密で、しかも全体が見事に構築されていた。同年8月にROFで上演された《エルミオーネ》は、悲劇的な状況のなかで人々が激しく変転する当時の先進的な作品に、劇的な表情をあたえつつ瀟洒な美しさを通底させた。

いずれも客席は熱狂した。すでにすこぶる高かったロッシーニ演奏の水準が、さらに一段上がった感があった。

そして、いよいよ「ロッシーニの最高傑作の一つ」と語る「スターバト・マーテル」である。そこには、初演時のように歌えるという点で疑なく世界一のロッシーニ・テノールであるマキシム・ミロノフ、円熟の領域に入りつつ、いまでもロッシーニ歌手として圧倒的な光彩を放っているダニエラ・バルチェッローナ、テクニクに支えられた抒情的歌唱で新国立劇場でもおなじみのハスミック・トロシャン、ベルカント歌手として不動の地位を築きつつあるマルコ・ミミカと、世界最高峰の歌手が集まる。

「このすばらしいオーケストラと仕事をするのが大好きだ」と語るマリ奥特ティは、次はどんな「ドラマ」を創造するか。それがどんな方向であれ、客席の熱狂を呼び起こす力が音楽から引き出されることはまちがいない。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

ご芳名 (敬称略)

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(4月20日現在、五十音順)。

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©Nikigami

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美
伊藤 美樹
沖田 陽子
鷺海 量明
木暮 紀子
澤田 秀雄

清水 尚彦
山口 積恵
山口 知子☆
山口 学
匿名 4名
☆名誉バトロン

サークル25

*荒木 陽子
石川 晴依世
猪田 隆文
井上 孝昭
岡野 一哉
加藤 英輔
後藤 実

鈴木 信恵
手塚 和彦
戸川 二郎
長瀬 雅則
平山 智史
山本 誠一郎
匿名 3名

サークル10

天野 佳和
五十嵐 建平
井澤 菜緒子
井上 千恵子
岩田 新
内山 誠彦
梅沢 麻衣
遠藤 秀和
大城 明幹
大崎 明子
大島 肇
太田 純子
太塚 具幸
大類 浩
岡 邦子
尾崎 茂
小野 久子
片山 泰輔
片山 千栄
金山 尚弘
金田 尚生
木質 賢市
木質 光剛
木内 正則
小林 健
古丸 祐太
近藤 和喜夫
斎藤 真
佐々木 利勝
佐野 慎吾
渡辺 幹雄
清水 恭一
高澤 美貴子
高津 光官
高野 幸一

高島 琢己
高家 正之行
岡田 忍
田中 建一
谷川 啓明
谷藤 明雄
千葉 清隆
角田 隆直
中澤 守正
中村 豊
成瀬 倉祥
西谷 公男
橋本 純一
早川 正希
原田 美保子
アーネスト M. 比嘉
平川 尚義
枇杷 高志
久 聡
増岡 聡一郎
真野 美千代
真野 睦美
三浦 高久
越中 祐太
三橋 恭博
岸 健
森口 優子
森下 国彦
八木 昭
八木 典彦
山本 重雄
山本 明
吉井 久美子
吉村 美恵子

米岡 修一
匿名 13名

フレンズ5

東 恭代
有江 純子
石原 祥子
潮田 伊織
大川 明彦
大野 紀子
奥秋 和彦
加藤 政晴
河野 愛
小林 義彦
佐藤 信一
塩澤 誠司
高際 比呂志

フレンズ3

秋山 真一郎
明 重樹
明 洋一
荒 有坂
有坂 卓志
石澤 聖恵
井上 聡
上井 正明
岩瀬 純
大崎 透
大津 啓一
大塚 展男
大塚 昌資
大塚 康恭
小川 桂子
奥瀬 文里
奥田 夕里
小澤 明子
尾島 修
小田 雄一
皆瀬 由美子
加香 伸彦
加香 綾
加香 伸治
加香 洋
加香 弘
加香 一穂
加香 孝
加香 智子
加香 明美
加香 悦子
加香 健司
加香 良枝
加香 和浩

寺西 基之
中島 信男
長谷川 泰弘
早川 利郎
松信 正志
村松 幸
山口 聡
山田 修造
山本 喜良
吉田 哲一郎
田邊 純一
匿名 2名

杉田 弘也
鈴木 子
須田 眞理子
関根 三善
高石 祐
竹内 あゆみ
田中 美貴子
田中 豊
都築 崇明
中村 元嗣
中村 幸雄
中村 利明
永瀬 淳子
長瀬 清美
浪川 悦子
成田 尚弘
西田 直
根本 暢明
根本 暢明
野島 克己
早川 京子
春川 昭夫
福田 栄
藤田 淑子
藤野 脩
藤森 朗
星 直樹
堀江 智巳
松下 一彦
三橋 正典
村田 拓郎
森山 由希
安江 健治
仁孝

山田 敏之
山之内 喜義
山之内 英明
鎗水 みお
横尾 順

吉原 美紗恵
渡辺 敦郎
*和田 真理
匿名 36名

フレンズ1

■あ 相磯 浩
青木 眞輝
青野 寛道
赤崎 述子
秋元 節恵
秋元 淳志
朝倉 淳志
浅里 文男
達夫 郁夫
安達 めぐみ
足立 幸子
穴水 浩子
阿部 清彦
阿部 百合子
阿部 祥一
新井 利昭
池田 誠子
田中 紀一郎
石川 幸宏
磯村 晴子
井手 勉
伊藤 宗功
伊藤 力雄
伊藤 順一
稲葉 康子
井上 正義
猪瀬 聡
今井 由紀夫
今井 邦男
今井 美知子
今宮 知子
今村 裕
今村 淳子
岩澤 順子
岩瀬 裕一
岩野 洋子
岩野 正昭
臼居 重男
内海 眞名子
内川 誠
内山 さゆり
宇野 正芳
宇野 拓志
梅里 干枝子
瓜生 ぐすえ

江藤 祐子
大川 剛
大越 貴志
大嶋 孝義
大島 正初彦
大島 康裕
大島 裕美子
大塚 賢久
大塚 英司
大塚 由香
大塚 喜信
大塚 豊裕
大塚 悦子
大森 幸吉
大森 節子
岡田 正道
岡田 美徳
岡田 明徳
岡田 兵衛
小川 幾子
沖 知子
奥村 和歌子
奥村 亮子
奥村 壮史
奥村 弘彦
奥村 ヒロ・エル
小倉 正義
尾崎 正美
小名 雅恵
小野 信也
小野 英樹
小野 美和
小野 純二

■か 甲斐 幸士
海藤 慶子
方波 伸和
葛城 一憲
加藤 憲司
加藤 洋子
加藤 里加里
加藤 裕基
狩野 善行
狩野 安子
川野 裕美子
川之上 広和
菅野



*新会員の方です。ありがとうございました(4月20日現在、五十音順)。

米田 光
米村 恵子
米谷 克幸
わ
若田部 矩弘
渡邊 朋子
C.S.
N.S.
T.Saito
匿名 158 名

■ 栄誉会員
ヨーク・ナガエ・
チェスキーナ

鈴木 久子
竹内 容子
齊藤 公治 メモリアル基金
牧野 季子
岡橋 純男
岡橋 孜

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社



当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代をお返し致しますませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます、当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いの分)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋 優	森山 雅一郎
清水 達	山崎 真穂
東 由美子	山本 淳一
星 直樹	匿名 8 名
前田 泉	(敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話でお願いいたします。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 *1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 *2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*}

^{*}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部

E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

オーケストラを力強く支えるホルン奏者

白井 有琳

SIRAI Arin

[ホルン奏者]2025年2月入団

最近始めたこと:ピラティス



©N. Ikegami

実はトランペットがやりたかったのです

父はチューバ、母はトランペットと両親が楽器を演奏していたこともあり、その影響から小学3年生には学校の金管バンドに所属し、トランペットを吹いていました。トランペットが楽しかったので、そのまま続けるつもりで中学でも吹奏楽部に入部しましたが、当時部活内ではトランペットの人气が高く、唇の形や歯並びを見た顧問の先生からホルンを担当するよう指示されてしまい、泣いてしまったことを覚えています。しかし、せっかく入部したのだからと一生懸命続けていくうちに少しずつホルンの魅力に惹かれていきました。



金管バンドで
トランペットを演奏する姿

音楽大学進学、 そして演奏家を目指して

両親が教員だったことから、将来の夢は教員になることで、吹奏楽部の顧問の先生から「音楽を教える立場になるのであれば、本格的にしっかりと学ぶべきだ」と言われたことがきっかけで音楽大学進学を目指しました。高校2年生から楽器のレッスンを受講するようになり、自宅のある釧路から先生のいる札幌までバスで7時間をかけ通っていました。

そのため、一回一回のレッスンでたくさんのことを吸収したいと思う気持ちが強くこの経験から忍耐力を培ったように思います。

教員を目指していたものの、音楽大学在学中の環境や経験から卒業間近には演奏家としての道が目標となっていました。

卒業直後はコロナ禍でコンクール中止が相次ぎ、実績もなく、エキストラとして参加した団体では厳しい指摘や意見をもらうことも多くありましたが、高校時代に培った忍耐力と持ち前の知識欲で、納得のいくまで、積極的にレッスンを受け、学ぶ姿勢を貫いていました。

ようやくコロナ禍が明け、活動の範囲が広がった時期に東京交響楽団のオーディションがあり、今までの努力とタイミングが合わさったように感じています。

今後の目標

2025年度はノット監督のラストシーズンです。これまで楽員の皆さんがノット監督と築いてきた音楽をより良いものにできるよう努め、周りに信頼や安心を与えられる奏者になりたいと思っています。



インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

・Report 3/22かわさきシンフォニー・ポップス Songs and Dances

川崎市市制100周年・ミュゼ川崎シンフォニーホール20周年記念コンサートとして「Songs and Dances」をテーマに、オーケストラと歌、オーケストラとプレイキンというジャンルの垣根を超えたコンサートを開催しました。東京交響楽団正指揮者原田慶太楼の指揮のもと、ShigekixとThe Floorriorzのダイナミックなダンス、岡幸二郎の力強い歌声にお客様も手拍子や声を出して盛り上げ、会場全体が熱い空間となりました。



Photo by A.tomozawa

退団

2025年4月12日付

塩谷しずか SHIOYA Shizuka [事務局]

1985年に第2ヴァイオリン奏者として入団、約40年間活動し再雇用にて事務局勤務いたしました。

NEXT PROGRAM

6/7 川崎定期演奏会 第100回 (土) 14:00 ミュゼ川崎シンフォニーホール 8 第731回定期演奏会 (日) 14:00 サントリーホール

指揮: ミケーレ・マリOTTI / ソプラノ: ハスミック・トロシャン
メゾソプラノ: ダニエラ・バルチェッローナ / テノール: マキシム・ミロノフ
バスバリトン: マルコ・ミミカ / 合唱: 東響コーラス

モーツァルト: 交響曲 第25番 / ロッシーニ: スターバト・マーテル

[6/7] ¥11,000 A ¥9,000 B ¥6,000 C ¥4,000 P ¥3,500

[6/8] ¥11,000 A ¥9,000 B ¥7,000 C ¥5,000 P ¥4,000



6/21 東京オペラシティシリーズ 第145回 (土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮&チェロ: マリオ・ブルネロ

ヴァインベルグ: シンフォニエッタ 第2番

ハイドン: 交響曲 第100番「軍隊」

ヴァインベルグ: チェロと弦楽のためのコンチェルティーノ

シューマン (ショスタコーヴィチ編): チェロ協奏曲 イ短調

¥7,500 A ¥6,500 B ¥4,500 C ¥3,500



©Giulio Favotto

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 / 土日祝休)

8/24 新潟定期演奏会 第142回 (日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館
コンサートホール

指揮: アダム・ヒコックス / ピアノ: 谷 昂登

リャードフ: 交響詩「魔法にかけられた湖」 / ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番

ショスタコーヴィチ: 交響曲 第10番

¥7,500 A ¥6,000 B ¥4,500 C ¥3,000 D ¥2,000



リューとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00 ~ 19:00 / 休館日除く)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュージアム川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024) concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・
高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2025年(令和7年)5月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュージアム川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエット